

ヨーロッパ史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
西洋中近世史特論	「ノルマン人の帝国」に 生きる	2	有光 秀行	1学期	月	4	1
西洋中近世史研究演習Ⅰ	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	1学期	火	4	2
西洋中近世史研究演習Ⅱ	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	2学期	火	4	3
西洋中近世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中世史料研 究	2	有光 秀行	1学期	水	4	4
西洋中近世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中世史料研 究	2	有光 秀行	2学期	水	4	5
西洋中近世史研究演習Ⅶ	ヨーロッパ近世・近代史 の諸問題	2	杵淵 文夫	1学期	金	2	6
西洋中近世史研究演習Ⅷ	ヨーロッパ近世・近代 史の諸問題	2	杵淵 文夫	2学期	金	2	7
欧米近現代史特論Ⅰ	「戦間期(1918－39 年)」再考	2	浅岡 善治	2学期	水	3	8
欧米近現代史特論Ⅱ	ドイツ農村社会史研 究	2	山崎 彰	集中(1学期)			9
欧米近現代史研究演習Ⅰ	ヨーロッパ近代革命の 歴史的再検討	2	浅岡 善治	1学期	木	2	10
欧米近現代史研究演習Ⅱ	ヨーロッパ近代革命の 歴史的再検討	2	浅岡 善治	2学期	木	2	11
欧米近現代史研究演習Ⅲ	欧米近現代史研究方 法論	2	浅岡 善治	1学期	火	2	12
欧米近現代史研究演習Ⅳ	欧米近現代史研究方 法論	2	浅岡 善治	2学期	火	2	13
課題研究 (ヨーロッパ史)		4	有光 秀行 浅岡 善治	通年	火	1	

科目名：西洋中近世史特論／ History of Medieval and Early Modern Europe(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM11405， 科目ナンバリング：LHI-HIS655J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「ノルマン人の帝国」に生きる

2. Course Title (授業題目)：

Living in the Empire of the Normans

3. 授業の目的と概要：

中世の「帝国」社会について具体的に理解することを目標とします。中世の日常言語で記された最初期の伝記の主人公、ウィリアム・マーシャルの、とくに後半生に着目します。

4. 学習の到達目標：

中世西北ヨーロッパ社会について、また「帝国」について、具体的な人物また史料を通して理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

11～13 世紀にノルマン人が進出した地域・社会を、近年 D・ベイツは「ノルマン人の帝国」として理解することを提案しています。その彼が提唱しているように、当時の人々の具体的な足跡をたどる中で「帝国」のあり方を考察します。大陸・ブリテン島・アイルランドと各地に所領を持った大貴顕、ウィリアム・マーシャルのとくに後半生に焦点をあて、当時の史料にも論究しながら論じます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50 パーセント）とレポート（50 パーセント）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

教室で指示する参考文献を読みながら、予習・復習をかならずおこなうこと。

9. その他：

科目名：西洋中近世史研究演習Ⅰ／History of Medieval and Early Modern Europe(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM12409， 科目ナンバリング：LHI-HIS656J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文・修士研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世伝記研究をあつかった論文の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50％）とレポート（50％）。

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：

科目名：西洋中近世史研究演習Ⅱ／ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM22407， 科目ナンバリング：LHI-HIS657J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、修士論文・修士研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世伝記研究をあつかった論文の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。訳読と質疑応答が中心です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：

科目名：西洋中近世史研究演習Ⅲ／ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM13404， 科目ナンバリング：LHI-HIS658J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ中世史料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Sources of Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とします。中世ラテン語史料を訳読し検討します。

4. 学習の到達目標：

中世ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、中世盛期の知的世界を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげて、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解します。進度は参加者全員が理解しながらすすめるように配慮します。

6. 成績評価方法：

授業参加状況

7. 教科書および参考書：

教室で適宜指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：西洋中近世史研究演習Ⅳ／ History of Medieval and Early Modern Europe (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LM23406， 科目ナンバリング：LHI-HIS659J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ中世史料研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Sources of Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

中世ラテン語史料の読解力を涵養することを目的とします。中世ラテン語史料を訳読し検討します。

4. 学習の到達目標：

中世ラテン語史料の高度な読解力を涵養する。また、中世盛期の知的世界を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

中世ラテン語史料のうち、叙述史料をとりあげて、文法・文脈両面より検討しながら叙述の流れに沿って訳読し、理解します。進度は参加者全員が理解しながらすすめるように配慮します。

6. 成績評価方法：

授業参加状況

7. 教科書および参考書：

教室で適宜指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所のラテン語原文を、教室で日本語に訳せるよう、必ず予習すること。読解上の疑問点などもまとめておくこと。特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：西洋中近世史研究演習Ⅶ／ History of Medieval and Early Modern Europe(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LM15208， 科目ナンバリング：LHI-HIS662J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。同時に、卒業論文ないし卒業研究を見据えつつ、各自テーマを設定して研究動向等の調査を実施し、その成果を発表する。これらの課題を通じて、歴史研究を行うための基礎的な素養を習得する。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や技法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認
2. テキスト解釈の報告と討論(1)
3. テキスト解釈の報告と討論(2)
4. テキスト解釈の報告と討論(3)
5. テキスト解釈の報告と討論(4)
6. テキスト解釈の報告と討論(5)
7. 課題報告（前期中間）(1)
8. 課題報告（前期中間）(2)
9. テキスト解釈の報告と討論(6)
10. テキスト解釈の報告と討論(7)
11. テキスト解釈の報告と討論(8)
12. テキスト解釈の報告と討論(9)
13. テキスト解釈の報告と討論(10)
14. 課題報告（前期最終）(1)
15. 課題報告（前期最終）(2)

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：

科目名：西洋中近世史研究演習Ⅷ／ History of Medieval and Early Modern Europe(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LM25208， 科目ナンバリング：LHI-HIS663J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。また、前期に引き続いて、各自で設定したテーマについて文献の調査や分析を進め、その成果を発表する。これらの課題を通じて、専門研究・専門論文作成の準備を進める。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や方法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認
2. テキスト解釈の報告と討論(1)
3. テキスト解釈の報告と討論(2)
4. テキスト解釈の報告と討論(3)
5. テキスト解釈の報告と討論(4)
6. テキスト解釈の報告と討論(5)
7. 課題報告（後期中間）(1)
8. 課題報告（後期中間）(2)
9. テキスト解釈の報告と討論(6)
10. テキスト解釈の報告と討論(7)
11. テキスト解釈の報告と討論(8)
12. テキスト解釈の報告と討論(9)
13. 課題報告（後期最終）(1)
14. 課題報告（後期最終）(2)
15. 授業総括

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：

科目名：欧米近現代史特論 I / History of Modern Europe and America (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM23306， 科目ナンバリング：LHI-HIS664J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「戦間期（1918－39 年）」再考

2. Course Title（授業題目）：

The Reconsideration of the Interwar Period (1918-39)

3. 授業の目的と概要：

100 年を目前にして、かつて E・H・カーが「危機の 20 年」と称した両大戦間期の歴史的再検討が急速に進んでいる。本講義では、近年の研究成果に依拠しつつ、戦間期のヨーロッパとアメリカの歴史を再検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 欧米各国史および国際関係史の観点から、20 世紀史の概要を把握する。
- (2) 近現代史の知見を基に、現代の諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー本講義の趣旨と進め方について
2. 最初の世界戦争の終わり
3. パリ講和会議（1）
4. パリ講和会議（2）
5. 「平常への回帰」？（1）
6. 「平常への回帰」？（2）
7. 「平常への回帰」？（3）
8. 民族の自決（1）
9. 民族の自決（2）
10. ヴェルサイユからロカルノへ
11. ファシズムとコミュニズム（1）
12. ファシズムとコミュニズム（2）
13. ファシズムとコミュニズム（3）
14. 新たなる世界戦争
15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

特定の教科書は使用しない。参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。事実関係の確認には、大江一道『世界近現代全史Ⅲ 世界戦争の時代』（山川出版社、1997 年）が有用である。

8. 授業時間外学習：

「各論」でありながらも内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

科目名：欧米近現代史特論Ⅱ／ History of Modern Europe and America(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：山崎 彰（非常勤講師）

講義コード：LM98823、科目ナンバリング：LHI-HIS665J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ農村社会史研究

2. Course Title (授業題目)：

Rural Social History of Germany

3. 授業の目的と概要：

ベルリン周辺に広がるブランデンブルク地方の農村社会史について、以下の点を論じる。①研究史について。②ドイツの文書館と所領文書について。③自然環境と資源利用について。④定住形態について。⑤領主制と土地貴族について。⑥農村の市民社会化について。

かつてエルベ川の東部に位置するブランデンブルク地方の農村は、権威主義的な特殊ドイツ的政治社会の社会基盤と見なされてきた。しかし東西ドイツ統合後は、むしろ東部ドイツ農村社会にヨーロッパ社会共通の性格を見いだそうとする研究が増えている。授業では上記の論点を中心に、中

4. 学習の到達目標：

- (1) ヨーロッパ農村社会の基本的特性を理解する。
- (2) 環境と自然資源利用の歴史を理解する。
- (3) 農村史とヨーロッパ市民社会の関係について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ヨーロッパ地域社会の歴史的特性—農村と都市
2. 研究史
3. 文書館利用と領地文書—日本の地方文書との比較
4. ブランデンブルクの自然環境—台地と低湿地
5. 中世における定住形態と自然利用
6. 三十年戦争と「17世紀危機」
7. 三十年戦争後の復興と近世農場領主制の形成
6. 低湿地開発—経済資源の拡大
7. 農民をめぐる裁判と土地評価制度の形成—農民の権利安定化と都市知識人の役割
8. 領主制解体の過程

6. 成績評価方法：

出席点(40点) 試験(60点)

7. 教科書および参考書：

参考書：

山崎彰『ドイツ近世的権力と土地貴族』（未来社）
藤田幸一郎『ヨーロッパ農村景観論』（日本経済評論社）
飯尾唯紀『近世ハンガリー農村社会の研究』（北海道大学出版会）
桐生裕子『近代ボヘミア農村と市民社会』（刀水書房）

8. 授業時間外学習：

大塚久雄『共同体の基礎理論』（岩波現代文庫）を読んでおくことが望ましい。

9. その他：

科目名：欧米近現代史研究演習Ⅰ／History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM14209， 科目ナンバリング：LHI-HIS668J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

英語文献を用いたロシア革命の歴史的再検討を通じて、20 世紀史および近現代史全体を再考する。

4. 学習の到達目標：

英語専門文献の正確な読解、および討論を通じての内容理解の深化。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論(1)a
3. 試訳の検討と討論(1)b
4. 試訳の検討と討論(1)c
5. 試訳の検討と討論(1)d
6. 試訳の検討と討論(1)e
7. 小括(1)
8. 試訳の検討と討論(2)a
9. 試訳の検討と討論(2)b
10. 試訳の検討と討論(2)c
11. 試訳の検討と討論(2)d
12. 試訳の検討と討論(2)e
13. 小括(2)
14. 課題発表(1)
15. 中間的総括(1)

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004 年;Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：欧米近現代史研究演習Ⅱ／History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM24208， 科目ナンバリング：LHI-HIS669J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

英語文献を用いたロシア革命の歴史的再検討を通じて、20 世紀史および近現代史全体を再考する。

4. 学習の到達目標：

英語専門文献の正確な読解、および討論を通じての内容理解の深化。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 課題発表(2)
2. 試訳の検討と討論(3)a
3. 試訳の検討と討論(3)b
4. 試訳の検討と討論(3)c
5. 試訳の検討と討論(3)d
6. 試訳の検討と討論(3)e
7. 小括(3)
8. 試訳の検討と討論(4)a
9. 試訳の検討と討論(4)b
10. 試訳の検討と討論(4)c
11. 試訳の検討と討論(4)d
12. 試訳の検討と討論(4)e
13. 小括(4)
14. 中間的総括(2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004 年;Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：欧米近現代史研究演習Ⅲ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM12206， 科目ナンバリング：LHI-HIS670J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

欧米近現代史研究方法論

2. Course Title (授業題目)：

History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅲ

3. 授業の目的と概要：

欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握、(2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 中間的総括に向けての課題の整理
15. 中間的総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：欧米近現代史研究演習Ⅳ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LM22207， 科目ナンバリング：LHI-HIS671J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

欧米近現代史研究方法論

2. Course Title (授業題目)：

History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)Ⅳ

3. 授業の目的と概要：

欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

(1)テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握、(2)文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(3)a
3. テキストの検討・討論(3)b
4. テキストの検討・討論(3)c
5. テキストの検討・討論(3)d
6. テキストの検討・討論(3)e
7. 小括(3)
8. テキストの検討・討論(4)a
9. テキストの検討・討論(4)b
10. テキストの検討・討論(4)c
11. テキストの検討・討論(4)d
12. テキストの検討・討論(4)e
13. 小括(4)
14. 中間的総括(2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp